

2015 SUPER GT
LMcorsa Race Report
SEASON REVIEW

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹
ドライバーズランキング = 27 位・2pt. / チームランキング = 19 位・10pt.



LEXUS と Nissan、Honda の 3 大ワークスが鎬を削る GT500 クラスに加えて、GT300 クラスでも FIA-GT3 カテゴリーマシンのエントリーが増え、いまや国際的にも注目度が高まってきた AUTOBACS SUPER GT シリーズ。2014 年シーズンから参戦を開始した LMcorsa は、2015 年シーズンも引き続き、飯田章 / 吉本大樹のドライバーコンビでフル参戦。小林敬一監督が指揮を執り、小藤純一チーフエンジニアがクルマのセットアップを手掛けるなどチームの主要スタッフも不変だったが、レース車両が一新されていた。15 年シーズンは新たに制作された LEXUS RC F GT3 を投入。このクルマは LEXUS RC F をベ-

ースに FIA-GT3 規定に則って市販レーシングカーとして開発されたもの。カラーリングも一新、#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 とし てシーズンに臨むことになった。

プライベートテストでシェイクダウンは済ませていた#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は 3 月 14~15 日に岡山国際サーキットで実施された GTA の公式テストで一般にお披露目された。ただしこの時はカラーリングも施されてなく、カーボン地むき出しのボディで走行している。その後、富士スピードウェイで行われたタイヤメーカーテストでもクルマを熟成させ、いよいよ 4 月 4~5 日に岡山国際サーキットで行われた開幕戦を迎えた。土曜日の走り始めとなる公式練習から天候が不順で路面もウェットからハーフウェット、そしてドライと目まぐるしく変わるタフなコンディションとなったが、ベテランとなった 2 人のドライバーはもちろん、まだ S-GT 参戦 2 シーズン目の“若い”チームが頑張りノーミス / ノートラブルで日曜日は 300 km のレース距離を走り切り、10 位入賞を果たしていた。この勢いで連続入賞を、と気合を入れて臨んだ第 2 戦、ゴールデンウィークの富士 500 km は、残念ながらトラブルでリタイアに終わる。やはり新型車両を熟成していくのは大変だ。いやそれ以前にトラブルシューティングに追われてセットアップもままならない日々が過ぎていく。続くタイ・ブリーラム戦は駆動系のトラブルでリタイア。国内に戻って第 4 戦からは完走を続けたものの富士で 15 位、鈴鹿 1000 km で 19 位、菅生も 22 位に留まっている。しかし、公式テストに加えてタイヤメーカーのテストにも参加してクルマのトラブルシューティングと熟成 / セットアップに励んできたチームの努力が、第 7 戦のオートポリスで実を結ぶ。予選ではクラス 26 位にまで沈んだが、ドライからハーフウェットへと微妙にコンディションが変わっていった決勝レースでは着実な走行を続け、開幕戦以来となる 10 位入賞を果たすことになった。結果的には開幕戦と、この第 7 戦、2 回の 10 位入賞がシーズンのベストリザルトとなったが、続く最終戦のツインリンクもてぎでも、順位的には 17 位に留まったものの、#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は見事完走。5 戦連続の完走でシーズンを締めくくった。SUPER GT ではドライバーズポイントとは別にチームポイントも与えられているが、ドライバーズランキングが 27 位に留まったのに対して、チームのランキングは 19 位。もちろん 2 人のドライバーがよい仕事をしたことに異論をはさむ余地はないが、チームランキング 19 位は、ドライバーも含めてチームが一丸となってノーミス / ノートラブルを心がけて頑張ってきた証拠。SUPER GT に参戦 2 シーズン目の、まだ“若い”チームにとっては自信を深めることに繋がる大きな勳章となった。

もちろん、これで満足するわけにはいかない。残念ながら FIA-GT3 というカテゴリーは、チームがレースごとに工夫できる部分は大きくなく、また車両を制作したメーカー／車両コンストラクターにしても、毎年毎年、大きくアップデートさせるのも規則で禁止されているから、LEXUS RC F GT3 の 2016 年仕様がいきなり、最速・最強レーシングカーに生まれ変わることはありえない。それでも、参戦 2 シーズン目で大きく成長したチームの総合力で、来る 2016 年シーズンには上位グループに進出することが期待されている。

ドライバー／飯田 章

「シーズン最後のレースでは、コンスタントに走っただけで終わってしまいましたが、何とか完走できました。これで開幕戦と第7戦、2回の入賞に加えて、シーズン中盤から 5 戦連続完走ということになりました。クルマにトラブルが出ず、またドライバーもミスをしなかったのは当然ですが、チームもミスなくレースを走りきることができた証拠で、1 年間の成長を、改めて感じ取ることができました。それに最終戦での完走は、来年に繋げるレースになったと思います。これからも、クルマの“カイゼン”を続けていきたいですね」



ドライバー／吉本大樹

「今シーズンは、なかなか速さを見せることはできませんでしたが、しぶといレースをして、シーズン中盤から最終戦まで完走を続けることができました。ストレートスピードではライバルに後れを取っていますが、1 年を通じてマシン開発を進めてきて、コーナーでは少しずつ、ライバルとの差を詰めることができました。数字には表れていませんが、これは大きな収穫だったと思います」

監督／小林敬一

「ドライバーには悔しい思いをさせたシーズンになりました。本当はもっともっと速さを発揮して、ライバルをコース上で追い抜いて上位に行きたいのですが、本来のポテンシャルを発揮するまでは無理な話です。だから今シーズン全般で見せたように、ライバルがこぼれおちてくるのを拾うしかない。シーズン序盤には、我々がこぼれ落ちたこともありましたが、中盤以降は何とか、チームが一丸となって頑張り、完走を続けることができました。でも最近の GT300 は本当に、クラッシュしたり接触したり、あるいはトラブルに見舞われて、後退するクルマが少なくなりましたね。もう一つ、シーズンを通してチームが成長しました。最終戦でもピットインに絶妙のタイミングで判断し対応できるようになりました。これも今シーズンの収穫です。1 年を通じて応援、ありがとうございました」

